



愛の文明を築く

デジタル時代のテクノロジー、戦争、責任

テクノロジー、権力、暴力の いっそう緊密な結びつき

力の文化

- ・ 戦争の常態化
- ・ 「強い者が勝つ」という論理
- ・ 経済的利益（兵器）

テクノロジーのリスク

- ・ 自動化された意思決定
- ・ 責任の所在が不明瞭
- ・ 市民が「データ」へと還元される



平和 = 共通善の根本的な条件

愛の文明

- ・ 正義 + 愛徳
- ・ 民族間の兄弟愛
- ・ 普遍的な共通善

テクノロジーの役割

- ・ 人間に仕えることであり、その逆ではない
- ・ 現実のかかわりをはぐくむこと
- ・ コミュニティを構築すること



「戦争を道徳的に容認しうるものとするアルゴリズムは存在しません」MH 198

機能不全を招く要因

- ⊗ 弱体化した多国間主義
- ⊗ 武力に基づく政治
- ⊗ 偽情報
- ⊗ 戦争経済

わたしたちにできること

- ✓ 言葉を武装解除すること
- ✓ 正義を築くこと
- ✓ 犠牲者に耳を傾けること
- ✓ 健全な現実主義（冷笑でもなく、楽観でもなく）
- ✓ 対話と外交



「平和によって失われるものは何もないが、戦争によってすべてが失われうる」MH 219

愛の文明は、日々のささやかな行いから生まれる。わたしたちはすべてを変えることはできないけれど、自分にできることをする。

心の回心なしに、また正義と連帯と、いちばんの弱者への配慮とを具体的に実践することなしに、テクノロジーの变革が定着することはありません。

読み解く鍵は「マリアの賛歌（マニフィカト）」——力の論理を覆し、謙遜の価値を認めること

「バベルの建設者ではなく、交わりを築く者」MH 16

になろう。人間がその本来のすばらしさを失うことのないように。人間の心のうちには、神が住まうことを望まれる場所があると、世界が見いだせるように。